

リトルリーグ北関東連盟



【安全対策マニュアル】

リトルリーグ北関東連盟として、連盟行事における各リーグ選手・スタッフ・父母等また第3者の事故・災害防止、発生時の基本的対処方法を記すものです。

昨今のリトルリーグのグラウンド環境・状況及び天候不順により、リトルリーグ北関東連盟(以下、「連盟」とする)に所属する各リーグの管理グラウンドで、如何に事故・災害リスクを減少させるか、また、発生した場合の対処が連盟として課題となっています。

事故・災害原因には、「リトルリーグの持つ特性」「選手・スタッフ・後援会(父母会等)の不慣れや過信による不注意」「スタッフの過失」「管理グラウンド施設・設備・備品の瑕疵」「雷」「竜巻」「地震」等があり、グラウンドにおいての事故・災害防止、発生時の基本的対処方法を確立することが重要となっています。

リトルリーグの危機管理は各リーグが選手の会費で運営している為、最小限の費用で事故・災害を防止すること、その再発を防ぐこと、またその発生した場合、如何に最善の対処をするかということです。

連盟として連盟行事(公式戦を含む)での「事故・災害防止、回避、危険の減少、安全の確保」の為に、グラウンドでの基本的対処方法について記すと共に、この基本的対処方法が連盟の課題を解消する「安全対策マニュアル」となることを望みます。

また、これを機に連盟として各リーグが管理グラウンドについても事故・災害防止、発生時の基本的対処方法を取決めるように指導するものです。

I 連盟行事(公式戦を含む)での責任者

連盟行事、特に公式戦においては大会責任者をプログラムに記載し、複数グラウンドを使用する場合は、グラウンドごとの責任者も記載します。また、各リーグにおいては「引率責任者」を帯同させなければなりません。

- (1) 責任者とはそのグラウンドにおける「事故・災害防止」及び「事故・災害発生時」の危機管理の最高責任者です。
- (2) 大会期間中、グラウンドの責任者が何らかの事情があり常駐できない場合は、連盟事務局長に承諾を得なければなりません。その場合の責任順位を記します。
 - ①連盟役員
 - ②連盟理事
 - ③連盟競技責任者
 - ④連盟審判責任者

⑤グラウンド管理リーグ(事務局長以下、国際登録順位とする)

- (3) グラウンドを提供するリーグはファール・ホームランボールへの注意喚起をすることとします。
- (4) 事故・災害が発生した場合は、緊急性の有無を責任者が判断し、社会通念上の行動を取ることとします。
- (5) 事故・災害が発生した場合、連盟と各リーグの連絡が円滑にできる為に、リーグ事務局長の電話番号及びメールアドレスを連盟に報告していただき、連盟との連絡網を確立します。
 - ①連盟事務局長 ⇄ (各ブロック長) ⇄ リーグ事務局長
 - ・基本的にはメールを使用します。
 - ②自然災害が発生し連絡が取れない場合、連盟ホームページにてインフォメーションします。
 - ・Facebook を使用する場合があります。

II ルール(慣習)の遵守

リトルリーグには独自のルール(慣習)がある為、その競技・安全性の両面からルール(慣習)やグラウンド施設・備品、道具の規格基準が規定されています。ルール(慣習)を守っていても不可避的事故(デッドボール、衝突等)は起こってしまいます。

事故を最小限にするには、各リーグスタッフはルール(慣習)を選手、後援会(父母会等)に守らせることを徹底する義務があります。その一部を記します。

- (1) 胸部保護パットの装着
- (2) ヘルメットの装着
- (3) 試合時のベンチ脇での素振りの禁止
- (4) ノック時の捕手道具の装着
- (5) 所定位置での応援

(6) 駐車場での徐行、及び指定場所への駐車

等々……

Ⅲ グラウンド施設・備品、道具の管理

練習・試合等を行う場合、グラウンド施設・備品、選手が使用する道具の不具合や破損などがないかの確認を徹底します。その為に、各リーグスタッフや連盟の競技・審判員がグラウンド施設・備品、道具を点検し事故を未然に防止するチェックが重要となります。その一部を記します。

(1) 練習・試合前の道具のチェック

①バットの規格、破損

②グローブの網目や紐

③スパイクの紐、金具

④捕手プロテクターの破損

等々……

(2) グラウンド施設・備品のチェック

①防護ネットの高さ不足や破損

②防護ネット支柱の安全性

③ベンチの安全性

④内・外野のグラウンド状態

⑤ファール・ホームランボールの飛球範囲

⑥応援席の安全性

⑦本部席等のテント・タープのペグ等による固定化

等々……

(3) バックネット・バックスクリーンの延長線上にボールと同色系(白等)のテント・タープ、横断幕の設置を禁止

Ⅳ 自然災害への対応

リトルリーグ活動は屋外で行われる為、暑熱環境下での「熱中症」への対処や「落雷」「竜巻」「地震」等の発生といった自然災害への対処が重要となります。発生後の状況を把握し、対処することが大切です。

(1) 熱中症

①予防

- ・睡眠不足や風邪ぎみなど、体調の悪い時は控えさせる。

②水分補給

- ・定期的に少しずつ水分を補給。
- ・特に夏場は汗と一緒に塩分が失われる為、スポーツドリンクがよい。

③熱中症になった場合

- ・涼しい日陰やクーラーの効いた車内などに移動。
- ・ユニホームをゆるめる。
- ・体を冷やす。
- ・水分を補給。

(2) 落雷

遠くでかすかにでも雷鳴・雷光を認識したら、グラウンドに落雷する危険があると考えて対処する。

①早めの中断

- ・選手の安全のために先ず試合を中断。

②落雷からの避難

- ・安全な空間
コンクリート建造物や自動車等の中に避難。
- ・危険な空間
樹木直下、テントのポール近く。

③避難方法

- ・雷鳴・雷光が遠いうちに避難することが重要。
- ・落雷が激しく逃げられない時は、その場で寝そべる。

④再開の目安

- ・ラジオや電話などで雷注意・警報の解除を確認して再開。

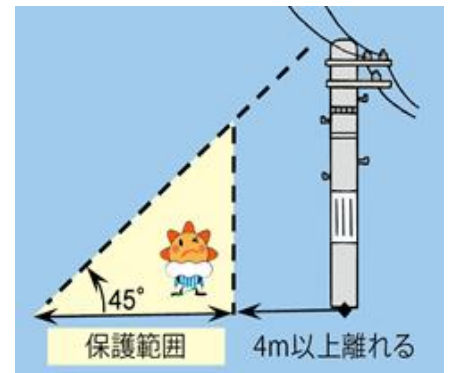
⑤落雷事故時の応急処置

- ・心肺蘇生法(人工呼吸+胸骨圧迫:心臓マッサージ)を施せば助かる確率が高い。
- ・各リーグスタッフ、連盟競技・審判員は心肺蘇生法を習得することが望ましい。

(3) 竜巻

竜巻が身近に迫ったときの特徴

- ・雲の底から地上に伸びる漏斗状の雲。
- ・飛散物が筒状に舞い上がる。



日本大気電気学会から引用

- ・気圧の変化で耳に異常を感じた。

①竜巻からの避難

- ・安全な空間

コンクリート建物

ほとんどのグラウンドの場合、近くに建物がない為、上記特徴を察知したら、すぐに避難。

- ・危険な空間

自動車内や樹木のそば。

②避難方法

- ・竜巻が遠いうちに避難することが重要。

(4) 地震

地震は突然襲ってくるので前もって避難することは不可能です。その為、被災した場合、安全を確認し、最寄りの指定避難場所へ移動することとします。

①ラジオ、携帯で被災状況を確認

- ・津波の恐れがある場合は高台(高いコンクリート建物)に速やかに避難。

②安全を最優先し避難場所へ移動。その際、地域避難指示に従います。

③ I-(5)を参照し、連絡することとします。

| リーグ | 避難場所 | リーグ | 避難場所 | |
|-----|---------------|-----|-------------|--------------|
| 浦和 | 県立浦和北高等学校 | 足利 | 足利市立第三中学校 | |
| 川口 | 川口市立差間小学校 | 上尾 | 上尾市立東町小学校 | |
| 越谷 | 越谷リトルグラウンド | 上尾西 | 上尾市立平方小学校 | |
| 草加 | そうか公園グラウンド | 宇都宮 | 宇都宮市立清原中学校 | |
| 川越 | 川越市立霞ヶ関南小学校 | 深谷市 | 県立深谷高等学校 | |
| 所沢 | 狭山市立柏原小学校 | 大宮 | レパーズ | さいたま市立馬宮東小学校 |
| 飯能 | 飯能市民会館 | | ライオンズ | 武蔵野高等学校 |
| 朝霞 | 内間木公民館 | | フライヤーズ | 大宮生研センター |
| 志木 | 志木市立宗岡小学校 | 大宮北 | さいたま市立宮原小学校 | |
| 新座 | 新座馬場グラウンド | 大宮西 | さいたま市立別所小学校 | |
| 富士見 | 志木市立宗岡第二小学校 | 大宮東 | イーグルス | さいたま市立芝川小学校 |
| 南浦和 | 荒川総合運動公園グラウンド | | オリオンズ | さいたま市立八幡中学校 |
| | | | スワローズ | 日本大学 大宮校舎 |

V AED(自動体外式除細動器)

AEDとは、Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略で、電源を入れると音声で操作が指示され、救助者がそれに従って除細動(傷病者の心臓に電気ショックを与えること)を行う装置です。

AEDは自動的に心電図を診断し、電気ショックを与える必要があるかどうか判断しますので、医学的な知識が少ない一般市民でも音声ガイダンスに従った操作で救命処置ができます。

連盟としましては、選手にボールの衝撃を軽減するために胸部保護パットの装着を義務化しています。しかしながら、心臓突然死は誰にでも起こるかもしれないと言われていています。万が一の場合に備え、各リーグの管理グラウンドには常置しておく必要があります。

AEDの使用方法や救命処置については、各リーグが地域の消防署で講習会を受講することを推奨します。

(1) 迅速な除細動の重要性

突然の心停止を起こした場合の除細動(心室細動を起こした心臓に電気ショックを与えること)が1分間遅れるたびに約10%の割合で救命率は低下するそうです。救命にはできる限り早く除細動を行うことが重要です。

(2) 胸骨圧迫とAEDの組合せ救命が重要

(3) 救命の手順

突然の心停止を起こした人を救命する場合、「救命の連鎖」といわれる4つの行動を迅速に行うことが重要です。

①迅速な119番通報

- ・通報から救急車が着くまでに全国平均8分。

②迅速な心肺蘇生(CPR: Cardiopulmonary Resuscitation)

- ・心臓や呼吸が止まってしまった人に対して胸骨圧迫(心臓マッサージ)や人工呼吸を行うことです。

③迅速な除細動

- ・AEDを音声ガイダンスに従って使用する。

④迅速な高度救命処置(救急隊員の処置)

VI スポーツ保険加入の義務化

保険をかけることは、事故・災害防止にはなりません、危機管理において事故・災害発生時の対策として不可欠です。各リーグは選手・スタッフ・後援会(父母会等)は漏れなく保険に加入するべきで、連盟としても推奨いたします。

スポーツ保険制度は、活動中や活動場所への交通経路での事故に支払われる傷害保険と第3者への賠償責任保険があります。但し、このスポーツ保険制度は最低限の保障内容となっている為、各リーグが選手・スタッフ・後援会(父母会等)へ保障内容を周知することが大切です。

- (1) 公益財団法人 スポーツ安全協会

<http://www.sportsanzen.org/index.html>

- (2) 最低限の保障である為に、不測の事態を招いた場合には、その被災された家族に十分な理解を得る保険金額ではありません。このことから万が一に備え、リーグとして個々に傷害保険の加入を薦めましょう。

VII 安全に対する認識

ここまで記しました「事故・災害防止」「事故・災害発生時」の対処方法は基本的なことです。すべてを施したとしても万全であるといえません。

連盟役員・理事・競技員・審判員・広報員、各リーグスタッフ・後援会(父母会等)の全ての大人は、「選手である子供達の為のボランティア」であると自覚することが重要です。

そして、このリトルリーグ活動に携わる全てのボランティアの方々が選手である子供達、周辺にいる第3者、そして自らの安全に対して創意工夫し、実行することが何よりも大切であると認識しましょう。

2013年10月12日 作成
リトルリーグ北関東連盟